

提出機関: Justus-Liebig-Universitaet Giessen, Germany

畜種: 猫、ショートヘア、若齢、雄(去勢)

病歴:

野良猫として動物保護施設に保護。下痢、潰瘍性口内炎、多数の内部寄生虫及び外部寄生虫(ノミ、ダニ)を認める。血液検査でFIVの感染を確認。前足に有茎性の腫瘍を認めため外科的に切除。その後、顔面の皮膚炎、耳炎を呈し、腫瘍の再発が認められたため悪性腫瘍を疑い、爪を含めて腫瘍組織を切除し組織学的検査を実施。

腫瘍の肉眼所見:

前足(爪の近傍)における $2.5 \times 2 \times 1.5$ cmの腫瘍部分的に皮膚に覆われる。表面は不規則なカリフラワー状で、硬く、割面の色調は灰白色。

病原検索

PCR

パピローマウイルスDNA : 陽性

Feline sarcoid associated papillomavirus (FeSarPV)

: 陽性

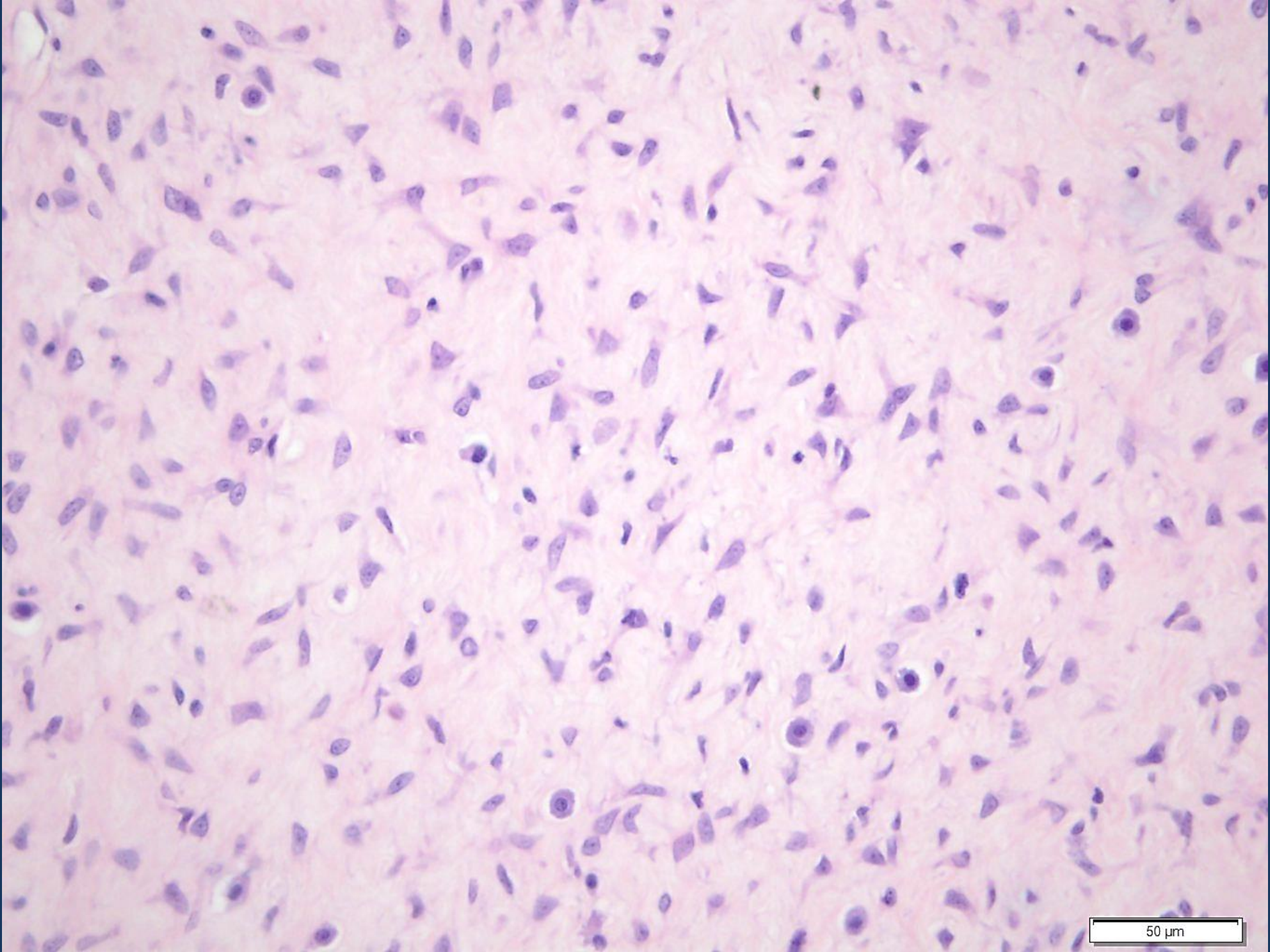




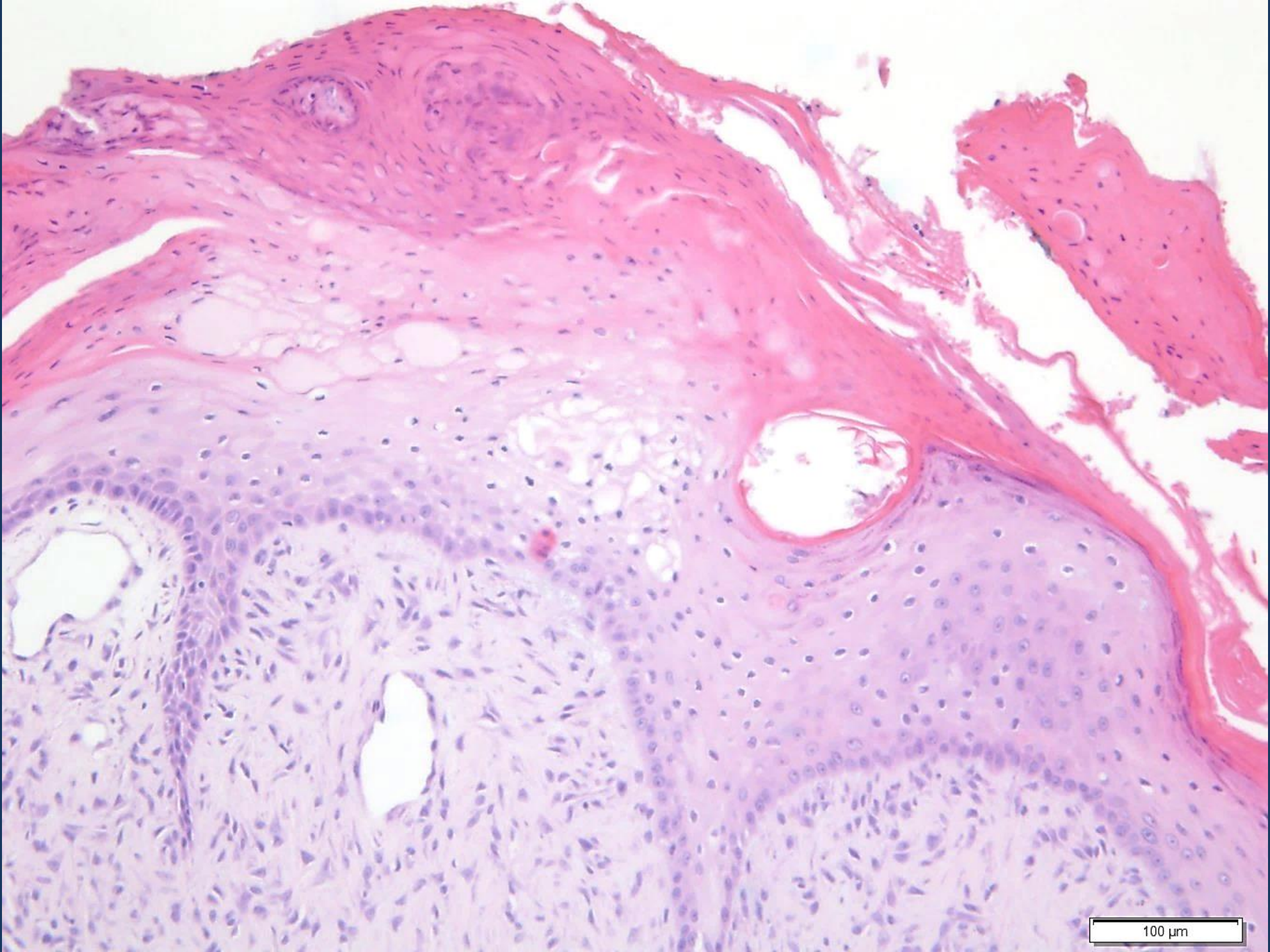
500 μm



100 μm



50 μm



100 μ m

提出者の診断

Morphologic Diagnosis :

Skin and claw: Feline sarcoid, feline, (*Felis domesticus*).

皮膚および爪 : イエネコにおける猫のサルコイド

Condition :

Fibropapilloma (feline sarcoid)

線維乳頭腫 (猫のサルコイド)

JPCの診断

Haired skin and footpad: Feline fibropapilloma (sarcoid)

皮膚及び足蹠 : 猫の線維乳頭腫 (サルコイド)

提出者のコメント

猫のサルコイド, 線維乳頭腫

好発: 若齢、雄

好発部位: 耳介、口唇、鼻、肢など

通常1～数個の硬い結節として見られる

2cm大まで大きくなり、有茎性や潰瘍化することがある
しばしば局所再発するが、転移の報告はない

原因: 複数のパピローマウイルスが原因として疑われている

・Feline sarcoid associated papilloma virus (FeSarPV)

反芻動物のパピローマウイルス (BPV-1、BPV-2、OvPV-1) に近縁

発生要因: 反芻動物(牛など)との接触

組織学的特徴:

増殖性の線維芽細胞が過形成を起こした表皮に覆われる

組織学的に馬のサルコイドと酷似する

鑑別:

線維肉腫、組織球性肉腫、紡錘細胞肉腫、末梢神経鞘腫、メラニン欠乏性黒色腫

JPCのコメント

パピローマウイルス

形態: non-envelope、正二十面体、二本鎖DNA (高温、酸、界面活性剤に抵抗性)

感染経路: 皮膚の擦過傷等からの直接or間接接触

表皮または粘膜の上皮細胞に強い親和性を示す

分類: アルファ(α) ~ シグマ(σ)の18属

宿主: 家畜、伴侶動物、実験動物など(多くは宿主特異的)

病変: 線維乳頭腫、扁平上皮性乳頭腫

Species	Skin lesion	Papillomavirus	Type
Horse	Equine sarcoid (equine cutaneous fibropapilloma)	BPV-1, -2	δ
Ox	Cutaneous fibropapilloma	BPV-1,-2	δ
	Both fibropapilloma and squamous papilloma	BPV-5,-8	Epsilon(ϵ)
	Cutaneous squamous papilloma	BPV-3, -6, -9, -10	Xi (ξ)
	Squamous papilloma of alimentary tract & urinary bladder	BPV-4	Xi (ξ)
	Squamous papilloma	BPV-7	novel
	Co-carcinogen with bracken fern (ptaquiloside) to induce urinary bladder neoplasms	BPV-2	δ